

## 【第19回 佐賀県豚熱対策本部会議】 9月20日 21:30

農林水産部長／本日21時、2例目の発生農場での防疫措置が完了した。

防疫措置の開始が8月31日20時、殺処分完了は9月8日10時20分。殺処分頭数は、1万364頭。農場内の消毒、汚染物品の処理、埋却処分、覆土の作業が、本日21時に完了した。

1例目は、完了まで67時間。2例目は、481時間（約20日と1時間）を要した。

現地作業の延べ人数は、1例目、2例目を合わせ1万2,371名。内訳は、県職員が7,400名、自衛隊1,400名、建設業関係2,123名、ほかにも多くの方々にご協力いただいた。

獣医師は、35都道府県から62名、FAMIC、動物検疫所からも支援いただいた。各都道府県の内訳は、資料のとおり。

殺処分後は、畜舎内の清掃。こびりついたふんを一つ一つ手作業で剥がしていく。その後、全体を消毒する。これを18棟分。農場内に残った餌は、タンクから抜き取り埋却処分。殺処分した豚と汚染物品を埋却した埋却地は盛土し、その上に消石灰を散布。さらにブルーシートで覆い、雨水対策を講じた。

今後、新たな発生がなければ、防疫措置完了から17日経過後、清浄性確認検査を行う。対象は、3km圏内の養豚農家。

検査内容は、目視による臨床検査。白血球数を確認する血液検査。豚熱ウイルスの有無を確認する遺伝子検査など。

検査期間が数日程度かかるが、陰性であれば、3km～10km圏内の搬出制限区域が解除される。さらに新たな発生がなければ、防疫措置完了から28日経過後、移動制限区域3km以内が解除される。順調に進めば、10月19日0時に解除の予定。

消毒ポイントは、畜産関係車両が6か所、一般車両が4か所を継続中。

滲出液に対して集積タンクを設置した。ここで集めた水を回収し、産廃処分場で処分している。今後、大型の貯水槽を隣接地に設置する。

今年度は、野生イノシシの豚熱ウイルス感染状況のモニタリングに、年間300頭を検査する計画だった。豚熱発生を受け、発生地周辺の捕獲イノシシ検査を強化するため、230検体を追加し検査する。

4月からの合計が193検体、うち発生地周辺が54検体。すべて陰性だった。

防疫措置は完了したが、今後も県内養豚農家に対し、消毒の徹底を呼びかける。

県土整備部長／畜産関係の消毒ポイントでは、8月31日～本日19時まで、合計2,399台の利用があった。平均で1日約100台、平日は130～160台。

多久インターと武雄市の若木公民館の24時間運用を、朝5時～19時までの運用に変更した。それ以外は24時間体制。

また、消毒台数の実績に応じ、動員人数を調整する。全体で1クルー29名体制を24名に、うち建設業者からの動員を21名から9名にし、負担軽減を図る。

南里防災監／皆さん、大変お疲れ様でした。本日21時、2例目の発生農場の防疫措置が完了した。1例目発生から、延べ1万2,371名に防疫作業を行っていただいた。

自衛隊、建設業協会、唐津防災対策協議会、JAグループ、バス・タクシー協会、トラック協会、森林組合連合会、関係行政機関など、すべての皆様に改めてお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

発生農場の防疫措置は完了したが、消毒ポイントや滲出への対応は当面続く。関係者の皆様には引き続きご苦勞をおかけする。よろしく申し上げます。

昨日からワクチン接種が始まった。接種しても万全ではない。引き続き消毒の徹底と、異変があった場合は、直ちに県に連絡をお願いする。